

厳島神社

まろうどじんじゃほんでん

客神社本殿

天忍穂耳命 (あめのおしほみのみこと)
天穗日命 (あめのほひのみこと)
天津彦根命 (あまつひこねのみこと)
活津彦根命 (いくつひこねのみこと)
熊野櫛樟日命 (くまのくすびのみこと)
をおまつりしています。

ごじゅうのとう

五重塔

高さ 約 27m
外観のみの拝観です。

ほうこくじんじゃ (せんじょうかく)

豊国神社(千畳閣)

豊臣秀吉公をおまつりしています。約 857 畳の広さがあり俗に千畳閣と呼ばれ親しまれています。

いつくしまじんじゃほんでん

厳島神社本殿

市杵島姫命 (いちきしまひめのみこと)
田心姫命 (たごりひめのみこと)
湍津姫命 (たぎつひめのみこと)
をおまつりしています。

だいくじんじゃ

大国神社

縁結の神、大国主命
をおまつりしています。

てんじんしゃ

天神社

学問の神、菅原道真公
をおまつりしています。

いつくしまじんじゃほうもつかん

厳島神社宝物館

えまほうのうしよ

絵馬奉納所

ほうのうしよ

みくじ奉納所

そりばし

反橋

のうぶたい

能舞台

出口

じゅよしよ

授与所

ご祈祷受付・ご朱印・
お札・お守はここで
受けられます。

たかぶたい

高舞台

舞楽をここで行之、
左右楽房にて楽器
を演奏します。

参拝入口

火焼前

ひたさき

おおとりい

大鳥居

高さ 約 16m
主柱の根回り 約 10m
木造の鳥居としては、国内
最大級の規模を誇ります。

至

清盛神社

きよむねじんじゃ



社殿の詳細情報はこちらへ

(火焼前より約 200m 先)



厳島神社の舞楽について

平安時代、平清盛公が当社を篤く信仰し、現在のような社殿を造営されました。その折、大阪の四天王寺から舞楽を厳島に伝えたのが始まりといわれています。

その後も大内氏や毛利氏、浅野氏の崇敬のもと、絶えることなく伝承され現在に至っています。



【振鈴(えんぶ)】

舞楽の最初に舞われ、天地の神と祖先の霊に祈りを捧げ、舞台を清めるという儀式的な要素を持っています。

【萬歳楽(まんざいらく)】

中国・唐の国では、賢王の御代には鳳凰(ほうおう)が飛来して、「賢王万歳(けんおうばんざい)」とさえずるといわれ、この声を楽に、その姿を舞に振り付けたと伝えられています。

【延喜楽(えんぎらく)】

醍醐天皇の延喜8年(908)に藤原忠房が曲を作り、式部卿敦実親王(しきぶのきょうあつざねしんのう)が舞を振り付け、年号の「延喜」を曲名にしたと伝えられます。

中国や朝鮮からの伝来曲ではなく、舞楽の中では数少ない日本で作られた曲です。

【一曲(いっきょく)】

左方と右方から楽器を持った舞人が一人ずつ出て同時に舞います。これは行列を作って歩く時に舞ったものが舞楽になったといわれています。

【蘇利古(そりこ)】

朝鮮においては、酒を造る際、竈と井戸を清める風習があります。そうした姿を舞にしたもので、竈祭舞(かまどまつりのまい)ともいわれます。

【散手(さんじゅ)】

釈迦の誕生時に作られたとされ、勇壮な武将の姿を表し、地を鎮める舞であるといわれています。

【貴徳(きとく)】

漢の時代、帝王に降伏して貴徳侯(きとくこう)と名乗った勇将がおり、その勇姿を模した舞といわれています。

【蘭陵王(らんりょうおう)】

約1400年前の中国・北齊の国王、蘭陵王・長恭(ちょうきょう)は、あまりに美しい容姿であったので、戦時、自軍の士気が揚がらない為、恐ろしい形相の面を付け指揮を執り、周の大軍との戦いに勝利しました。その姿を舞にし、武勲を称えたと伝えられています。

【納曾利(なそり)】

「双龍舞(そうりゅうのまい)」とも呼ばれるこの舞は、雌雄の龍が遊び戯れる様子を舞にしたといわれ、正式には二人で舞います。尚、一人で舞時は「落蹲(らくそん)」と呼ばれます。

【太平楽(たいへいらく)】

中国・漢の初代皇帝の暗殺を企てた者が、宴の席で剣を抜いて舞い、殺害の機会を窺うも、それに気付いた皇帝も舞いながら袖で防いだとの故事を舞にしたものです。

【狛鈴(こまぼこ)】

高麗(こうらい)からの貢ぎ物を運ぶ船が、五色の彩色をした棹で船を操って港に入る様子を舞にしたといわれています。

【胡徳楽(ことくらく)】

酒宴の様子を表した舞で、舞人が千鳥足で舞台を退出する滑稽な曲です。

【甘州(かんしゅう)】

唐の時代の中国の地名を曲名にしたと伝えられています。竹が多く生えているこの場所には毒虫がたくさん生息していましたが、この曲を奏する事で鳥の鳴き声に聞こえ、害を受けなかったといわれています。

【林謠(りんが)】

昔、甲子(きのえね)の日にこの曲を演奏したと言われ、衣装にもねずみの模様が刺繍されています。ねずみに関する舞楽曲であろうと思いますが、曲の由来は定かではありません。

【抜頭(ばとう)】

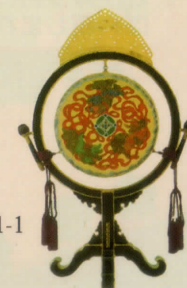
インドの話で、父親が猛獣に殺されたのを息子が知って憤り、仇を討とうと山中に分け入り、めでたく本望を遂げ、勇躍下山する様子を舞にしたものといわれています。

【還城楽(げんじょうらく)】

蛇を好んで食べる中国西域の人が、蛇を見つけて喜ぶ様子を模してこの舞を作り、見蛇楽(げんじゃらく)と名付けたのが始まりといわれます。

【長慶子(ちょうげいし)】

舞楽の演目の締めくくりに演奏される曲で、舞いはありません。



1月 1日 歳旦祭 《さいたんさい》

祭典後 午前6時30分頃より舞楽
振鈴

1月 2日 二日祭 《ふつかさい》

祭典後 午後1時より舞楽
萬歳楽、延喜楽

1月 3日 元始祭 《げんしさい》

祭典後 午後1時より舞楽
太平楽、狛鈴、胡徳楽、蘭陵王、納曾利、長慶子

1月 5日 地久祭 《ちきゅうさい》

祭典 午前5時30分・舞楽 午前7時頃より
振鈴、甘州、林謠、抜頭、還城楽、長慶子

2月 23日 天長祭 《てんちょうさい》

祭典 午前9時・舞楽 午前11時頃より
振鈴、萬歳楽、延喜楽、蘭陵王、納曾利、長慶子

4月 15日 桃花祭 《とうかさい》

祭典 午後5時・舞楽 午後6時30分頃より
振鈴、萬歳楽、延喜楽、桃李花、一曲、蘇利古、散手、貴徳、蘭陵王、納曾利、長慶子

5月 18日 推古天皇祭遙拝式 《すいこてんのうさいようはいしき》

祭典 午前9時・舞楽 午前9時30分頃より
振鈴、萬歳楽、延喜楽、蘭陵王、納曾利、長慶子

旧暦 6月 5日 市立祭 《いちたてさい》

祭典 午前9時・舞楽 午前10時頃より
振鈴、萬歳楽、延喜楽、蘭陵王、納曾利、長慶子

10月 15日 菊花祭 《きっかさい》

祭典 午後5時・舞楽 午後6時30分頃より
振鈴、萬歳楽、延喜楽、賀殿、一曲、蘇利古、散手、貴徳、蘭陵王、納曾利、長慶子

厳島神社

〒739-0588 広島県廿日市市宮島町 1-1

☎0829-44-2020

